

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2022/04/18

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	33.61	-0.07
JPY/THB	0.2661	-0.0014
USD/JPY	126.46	0.58
EUR/THB	36.36	-0.11
EUR/USD	1.0810	-0.0018
USD/CNH	6.382	-0.008
SGD/THB	24.76	-0.06
AUD/THB	24.88	-0.11
USD/INR	76.18	0.00
USD Index	100.50	0.18

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	1.871	—
10Y (THB)	2.594	—
5Y (USD)	2.787	—
10Y (USD)	2.828	—

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	1,970.9	—
WTI (Oil)	106.95	—
Copper	10,315.0	—

Stock

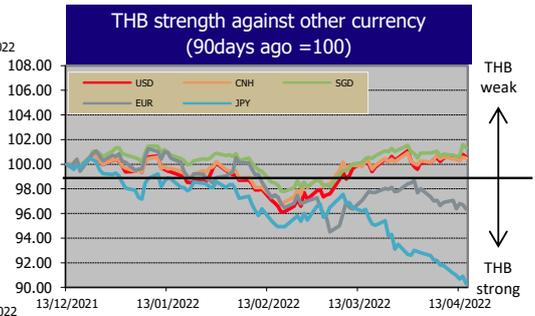
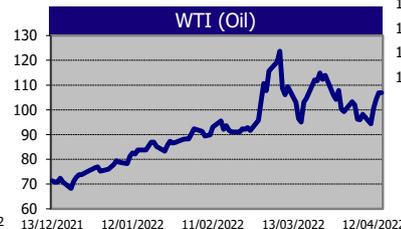
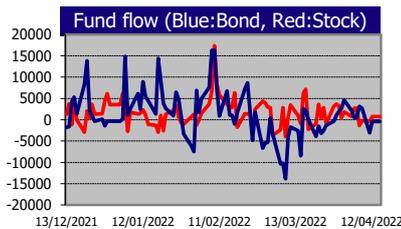
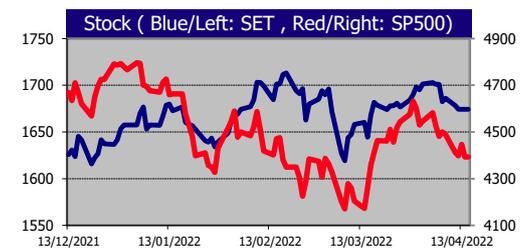
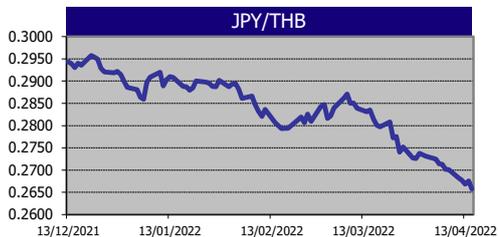
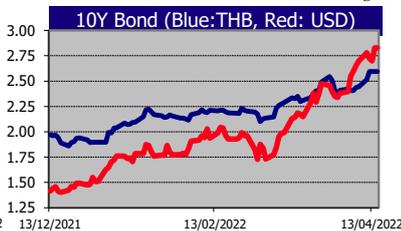
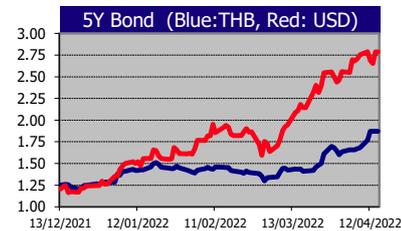
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,674.34	—
NIKKEI (JP)	27,093.19	-78.81
DOW (US)	34,451.23	—
S&P500 (US)	4,392.59	—
SHCOMP (CN)	3,211.25	-14.40
DAX(GER)	14,163.85	0.00

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	743	—
Bond net flow	(436)	—

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

12日のドルパーツは33半ばで取引を開始したが、ソンクラン休暇を前に同月高値圏での調整がメインとなり、バンコク時間終盤には朝方比パーツ高へ。海外時間、米3月CPIを受けてドルパーツは日中の下げ幅を縮小したが、タイの大型連休を前に上値は限定的だった。13日からはソンクラン休暇に入り、米CPIを通過したこともあって終日小動き。14日は流動性が低下している中で朝方からオフショア市場でのパーツ売りが優勢。また、ラガルドECB総裁が利上げを急がない旨発言したことで対ユーロでのドル高も影響して、33パーツ後半のまま推移。15日、タイの祝日に加えて周辺国も多くが休場となる中、小幅に下落した。海外時間では週末ムードから小動きとなり、33.60台で終えた。

●ドル円その他

12日のドル円は125円半ばで取引を開始し、日中は125円前半へ下押しされたが、125円半ばへと戻して海外時間へ。米3月CPIは約40年ぶりの高い水準を記録するが、予想の範囲内だったこともあり、米債の買い戻しと共に一時124円後半へ下落したが、再び125円半ばへ戻した。13日、日銀の黒田総裁が金融緩和継続を明言したことで遂に126円台へ到達。海外時間、126円をつけた達成感から125半ばへと押し戻され、特に材料も無かったため同水準を維持して引けた。14日は米金利に調整が入ってドル売りが強まったために125円前半まで下げたが、海外時間はFRB高官のタカ派発言を受けて米金利が反発。ドル円も連れ高となって126円近辺へ上昇。15日はグッドフライデーで多くのアジア市場が休場だったが、東京時間に126円半ばまで上昇。海外時間は週末を前に方向感に欠ける展開となり、126円半ばをキープして越過。

Bangkok Dealer's Eye

先週、米10年債利回りはFRBの早期金融引き締め観測から大きく利回りが上昇、先々週末比で13bpも利回りが上昇し、2.8%台と2018年以来的水準に達しています。一部では米インフレのピークアウトを指摘する識者の発言もありますが、資源価格の上昇を通じて世界の物価上昇に拍車をかけているウクライナ情勢では具体的な解決のための歩進展が見られず、長期化する懸念が高まっており、個人的にはまだ米物価上昇のピークアウトには至らず、米金利が高水準を維持する可能性が高いと考えます。先週はFRBとECBの金融政策スタンスの違いからユーロが急落する場面もあり、スタンスの違いという観点ではタイ中銀も同様にFRBとは対照的な緩和スタンスを貫いていることから、当面ドルパーツが底堅い動きを示すのではないのでしょうか。(鈴木)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.